

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370800229		
法人名	医療法人社団 敬和会		
事業所名	グループホームとおの		
所在地	岩手県遠野市松崎町白岩13-30-8		
自己評価作成日	平成23年2月10日	評価結果市町村受理日	平成23年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370800229&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所、通所の方、共に、「今日も来たな」「また来たよ」等、声をかけあい、仲良く支えあって過ごしております。また、自治会館も傍にあることから、地域の行事にも参加させていただき、ホーム外での楽しみもあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、医療法人社団敬和会が母体で隣接する老人保健施設も同法人が運営しており、職員は連携しながらサービスの向上に努めている。認知症対応型通所介護の認定(3名)を受けてから間もなく2年目を迎え、定着してきて入居の利用者との交流も円滑に行われている。近くには自治会館、保育園があり園児との交流、自治会館の利用が積極的に行われ生活環境としても恵まれている。地域を大切にし、地域の中で安心して自分らしく暮らせるホームを目指し取り組んでいる。職員は心に余裕を持つよう心がけ、利用者と一緒にお互い楽しめるように、職員同志の声かけを大切にし、意思疎通を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分達のグループホームとして又、地域の中でのグループホームを目指して、職員で話し合い、理念をかかげ、地域交流、ケアに取り組んでいる。	理念を「その人らしさを大切に明るく共に笑顔で過ごせるやすらぎの家」「ご近所づきあいを大切に地域にとけこむ我がホーム」を職員全員で作り上げて、月1回の会議でも話し合い、その実践につながる努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会費を支払い、地域の一人として行事に参加したり、ホームの行事に参加していただいたりするように取り組んでいる。	自治会の中に、「かかしの会」があり、代表の方(女性)には雑団子づくりや、ボランティアでの講師、つるし雑づくり等しながら昼食を御馳走になり、地域と一緒に楽しく過ごしてくる支援作りに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域主催の認知症研修に参加したことはあるが、実際、ホーム側から認知症の理解や支援の方法を話す機会というのは、出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の行事を教えてもらい参加している。又、ホームとの合同行事を今年度は、一緒に考え、実施してみている。他、会議を利用し、火災時の連携作りについて、話し合いをしている。	運営推進委員には、自治会長、民生委員、かかしの会代表の方がなっているので地域の行事を教えて頂き昼食と一緒に食べたり、芋の子会や小正月の行事も合同で実施している。火災時の連携作りには、積極的な意見をいただきサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には参加して、情報交換している。又、運営上必要なことにかんして、確認したいことは、担当者の方と会い、お話している。	運営推進会議の委員が、市の担当者となっており、特に通所介護の基準等、様々な問題について相談し、常に緊密な連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	脱園防止、外部進入を防止する為、玄関にセンサーを設置し、鍵をかけないようにしている。又、それ以外のことで、体の動きを制限するようなことはしないようにしている。しかし、身体拘束の勉強会を実施していなかった為、今後、年間研修の中に取り入れていきたい。	通所介護の利用者で外出傾向があるので、玄関にセンサーを設置はしているが、鍵はかけていない。本年度は研修、勉強会の実施はしていない。	「身体拘束」という言葉は知っているものの外部研修、内部研修を通して、意識の高揚、共有に努めるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待は良くないことという認識を持ち、そのようなことになる行為、態度はしないように、注意している。しかし、虐待の勉強会も実施していない為、今後、年間研修の中に盛り込み、学習する機会をもうけていきたい。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームとおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際権利擁護事業を使っている入所の方は、おりますが、学習する機会をもっておらず、権利擁護、成年後見制度に関する、勉強会も年間研修として取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、又、変更時には説明をし、理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	通所のご家族様からは直接お話を聞く機会が多いが、入所のご家族様からは、お話をすることも少なく、意識的に話を聞く機会も設けていない為、お話を出来る場を考えていきたい。	本人から、さりげない会話等から聞き出すようにしている。家族には月1回広報誌と、泊まりの方には個々の広報を送付し、要望を聞くようにしている。家族からの要望で、薬の自己管理等見守りしながら支援されている。携帯やパソコンで情報交換を行っている家族もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議をし、意見をだしてもらい良いサービス提供できるようにしている。又、普段から気づいた部分は話してもらっている。	月1回の職員会議や、個別面談での意見をまとめ、理事長とヒヤリングを行い、リフト付きの車の購入の実現、パートの増員、職員の休暇等の改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生として休む機会が増え、お互いに休めるようになった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できるくらいの勝因体制が整わず、今年度はほとんど参加していない。同法人の老健施設の職員研修には、出かけるだけ、参加している。又、市内グループホームとの合同研修会も実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の老健や市内グループホームとの合同研修に参加することで、話せる機会もあり、良い刺激になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境になれるまで、観察し、「どうしたの?」と聞く機会を多くもち、コミュニケーションをとるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在は、特に通所の利用者様のご家族様から送迎時等に色々聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく観察、見守りし、その後、職員間で話し合い、必要なケアをしていくように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯干し、洗濯たたみ、食事の準備、後片付け、ゴミ捨て等積極的に参加していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向をご家族様に伝え、一緒に支援できるところは、協力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅にいた時に買物をしていた商店街に行き、会話したり、以前入所していた、同法人の老健の入所の方とお話したりしている。又、いつも参加している自治会の集まりの方がたとは顔なじみになり、会うと、声かけしお話を楽しんでいる。	馴染みの商店街、美容院への外出や、隣の老人保健施設の入所者との交流に努めている。自治会の「かかしの会」へは、定期的な集まりに参加し、新しい関係作りの支援をしている。お互い顔なじみになり、会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活状況や利用者同士の関係が把握でき、その時に応じた対応をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度はそのような関わりがなかったが、以前は退所した後も、方向性が決まるまで、ご家族の方と一緒に支援したケースはある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	手伝いたいけど腰が痛い・・・という方に対して、腰痛がおきない程度に手伝ってもらえるように検討し、手伝っていただいたりしている。	利用者の日々の様子の申し送りノートの共有や、会話を積極的にもつと「気持ち」に気付くこともあり、関わりを多く持つことで、外出傾向が少なくなってきた。職員は利用者が一人であるのが不安であることを認識しており、笑顔で安心した生活を送れるよう支援されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの、職歴や、生活パターンを確認し、日々の関わりや会話の中に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情が普段とおかしい時は話しかけ、行動の様子を見て、対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスで、入所、通所の利用者様のことについて話し合っている。	介護計画は、月1回のカンファレンスで職員からの情報を得て作成し、モニタリングは3ヶ月に1回、実施している。家族からは、来訪した折に、担当職員が利用者の状況とホームの広報を一緒に手紙で要望を聞くようにしているが、返事が少ないのが現状で把握できない部分もある。	介護計画作成にあたり、職員は、本人の行動や会話から、思いを把握する努力をしている。接触の少ない家族の意見や了解を得るための方法を今一度、検討して頂きたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の仕方について色々変更してみているが、記入すべきことを記入できていない記録となることがあり、今後も見直しをしていきたいと思っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通所については、状況によっては、早めに迎えに行ったり、雪かきを手伝ったり、通常利用日ではない日曜日に、ご家族様の予定により、利用したりと、出きる部分は柔軟に対応している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームとおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館に出かけ、本を借りてきたり、地域の集まりに参加。又、読み聞かせやレクのボランティアの方がきてくれたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々にかかりつけ医があり、開業医のドクターとは、相談しやすい雰囲気となってきている。	本人、家族の希望する医療機関で受診を行っている。受診対応は家族となっているが、遠方に住んでいる家族は職員が同行し、結果報告をしている。医師、家族と円滑な連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	以前は、訪問看護の出入りが特定の入居者様にあったが、現在はなくなっている。感染対策面では、同法人の看護師長に相談することがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は、入院がなかったが、以前入院した際、面会に行き、洗濯をしたり、ナース等に話を聞き、早めに退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	。医療連携もできておらず、職員のレベルも伴わない為、看取りは行わない方針。今後、体制が整えば、取り組んでいけるようにしたい。	看取りについては、契約時にも本人・家族とは話し合いは行っていない。法人が運営しているグループホーム数ヶ所と職員会議で、看取りの方針を見直し中である。当事業所は医療連携も行っていないことから、体制が整えば、研修会や勉強会も含めて、検討していきたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1回、救命講習しているが、その他は定期的に行っていないので、年間研修の中に盛り込んでいきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練実施しているが、災害時の訓練を今年度は実施していない。地域との協力体制は製作中。	災害時のフローチャートも作成されており、避難訓練は年2回実施し、地震に対する訓練も行っている。災害時の訓練には地域の方々、消防署員と一緒に実施した後に会議を行い、その中で、外まで聞こえるようなスピーカーの設置の意見があり、準備中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間でしか分からないように話をしている。又、他の人がいる所で、トイレ、汚染等のようなことは大きな声で言わないようにしている。	プライバシーに関するマニュアルをグループホームの職員で作り上げ、利用者ひとり一人に合わせた言葉かけをして、個々の理解に努め、職員間で情報を共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、ご飯がいいか、お粥がいいかなど、細かい部分でも本人に確認し、対応するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゴミ捨て、散歩の外出を日課にしている方と一緒に毎日かけている。又、手伝いをしたいという方の気持ちを大切に、関わっていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スカーフをすることにこだわりのある方には、洗濯し乾いたら、すぐ渡すようにしたりしている。又、自分でいらない服をリメイクし、来ている方もいる。それから、パーマをかけたいという方には、美容師の方にきていただきかけてもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会の際、好みのものを提供するようにしている。又、季節のものを取り入れ、その食材を皆にあえて伝え、会話しながら食べてもらっている。それから、食事の準備や片付けは、積極的に手伝っていただき、一緒に行っている。	職員が献立を立て、介護老人保健施設の栄養士からアドバイスを頂いている。イベント食や年2回温泉に行った際の外食にも取り組まれている。畑からの収穫物が食卓にのり、季節感を感じたりしている。車いすの方も野菜を切ったり、配膳・下膳等、一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については、同法人の老健の栄養士にチェックしてもらっている、水分や排泄チェック表を確認し、水分補給を多めにしたりしている。水分では、お茶よりコーヒーが好きな方にはコーヒーで対応したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方にかんしては、声かけし行ってもらっているが、1日1回は職員が介助するようにしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームとおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	和式トイレのみで排泄できる方には和式トイレに誘導し、体を支えながら、頑張ってもらっている方がいる。又、排泄チェック表を見て間隔を見ながら誘導したり、トイレパターンを把握したりするようにしている。	排せつチェック表で把握している。和室トイレを利用されている方もあり、なるべくオムツを使わないよう、全職員が共有しており、一人ひとりの様子を見ながらトイレでの排泄が出来るよう自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を摂ってもらうようにしている。又、牛乳を毎日飲むことで、排便が見られる方には、毎日牛乳を摂っていただいたりしている。他、歩く機会をもうけたり、トイレ時、マッサージをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1番先に毎日入りたい希望のある方には、毎日、先に声をかけるようにしている。又、機嫌を見ながらタイミングをみて入浴に対応している方がいたり、個々の状況で対応している。	午前・午後と時間を取り、行っている。希望があれば、日曜日以外、ほぼ毎日の入浴は可能である。入浴の嫌いな通いの利用者には、タイミングと様子を見ながら対応している。異性介助も問題なく行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方その方で、パターンが出来ており、休む時間を把握し活動につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての勉強会をし、それぞれの薬の把握に努めている。内容が変わったときには、体調変化をみている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換として地域行事に参加したり、図書館に出かけたりしている。又、編み物や縫い物をして自分なりに服をリメイクしている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回の温泉や市内や地域行事への参加、季節感を味わっていただく為にもドライブに出かけたりしている。	入居者、通所介護利用者と一緒に、行事として、お花見、あじさい見学等季節感を感じる場所へ出掛けしている。月1回、図書館で本を借りたり、昔住んでいた近くの神社へ出かけたり、地域の行事(お茶会)に招待されて参加したり、個々の希望に応じた支援をしている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームとおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていることで安心する方には、おこづかいを本人管理でもっている。又、買物や外出時は自分で買物できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、ご家族様宛てに年賀状を書いていたいている。又、電話をかけてほしいという方には、とりつぎをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	乾燥する冬の間は加湿器を設置している。昼食後に電気を消すことでのメリハリをつけている。他、季節の花を飾ったり、工作を作り飾ったり、行事をすることで、季節感を感じてもらっている。	玄関にはつるし雛、和紙のひな人形が飾られており、車椅子は収納庫に入るようになっており、広く感じられる。加湿機が随所に置かれており、健康に気配りされている。壁にはホーム新聞として、利用者の笑顔いっぱいの写真が載っている。畳の小上がりやソファには、通所介護の利用者の方が、お昼寝をされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋の前のベンチに座り、会話したり、壁新聞を見ながら、会話がはずんでいる様子がみられている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	椅子、テーブル、筆筒をお部屋に持込んでいる方や、本人の好みに合わせ、家族の方が部屋の中を飾っている方がいる。	台所を中心とした回廊方式で、見守りしやすく休みどころも所々にある。床暖房で、温度差がなく各部屋には、加湿機が設置されており、持ち込みは、自由でお位牌、写真、テレビ等が置かれている。それぞれ居心地良く過ごせるよう配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂、トイレの手すりに認識しやすく赤のテープを貼っている。又、布をかけたらし違和感のないように危険な物はかくしている。		